

2022年(令和4年)

5月23日(月)

河北新報社

〒980-8660
仙台市青葉区五橋1-2-28
www.kahoku.co.jp

「東」は、未来



総合案内 022(211)1111
読者センター(211)1447

ご購入申し込みは
オオク ミナヨム
0120-09-3746

河北新報



漁船設備について臼井さん(右)から説明を受ける
新任教諭たち

マグロ漁船見学 地元産業を理解

気仙沼小中学校の新任教諭研修

地元の水産業に理解を深め教育に役立てようと、本年度に気仙沼市内の小中学校に赴任した新任教諭15人が20日、同市朝日町の商港岸壁で遠洋マグロはえ縄漁船を見学した。

市教委による教員研修会の一環。係留された「第8昭福丸」の船内を、市内水産会社などをつくる「気仙沼の魚を学校給食に普及させる会」が案内した。

甲板や操舵室、船員室などを巡って操業中の作業や魚の保管、1年近い船上生活について説明を受けた。会代表で船を所有する「臼福本店」

の臼井壮太郎社長(50)は、国際的な資源管理の必要性など漁業の課題も指摘。「トレーサビリティ(生産流通履歴)への意識を高め、日本の漁業を守り次代につなぐ必要がある」と訴えた。

地元出身で、初めて漁船見学に臨んだ鹿折中教諭吉田明星さん(22)は「船内には風呂や洗濯機もあり、船員の生活が感じられた。生徒たちにも漁業者の苦勞を伝えたい」と話した。

朝は水揚げ作業中の市魚市場を訪れた。17日には市内に転入した教職員26人も漁船を見学した。